

第3回総合戦略会議 顛末

期日：平成27年8月31日

時間：午後6時30分

場所：市民会館42号会議室

テーマ：「自然減の抑制対策施策について」（グループワーク形式にて実施）

○Aグループ

- 県でやっている子育て応援カードのような取り組みを市でもできないか。
- 前回配布資料の子育て支援センターヒアリング結果に多くの意見、要望がでている。例えば、遊び場、ママが気軽に集まれる飲食店、キノコの遊具がある公園などはどうか。
- 中野市はきのこ産業が盛んで、関連のアルバイトなどがたくさんある。
- 結婚しない人が多い背景には、正社員の職が少なく、非正規やワーキングプアの問題がある。将来にわたり安定的な仕事ができないと、子供も作れない。
- 昔と違いほとんどの夫婦が共働きであり、保育環境の充実が必要。
- 自分の時代は学校で人口爆発が問題であると習ったので、刷り込まれていると感じる。今は逆に人口減少が問題となっているが、それについて学んでいるのか。
- 核家族化が進み、子育てについて相談できる環境でないので情報が少ない。
- 夜間の勤務にも対応できるような幼児・学童保育サービスが必要。企業内保育のような制度ができないか。
- 出会いの機会が少なく、結婚できない。生活に支障がないということで、あきらめてしまう人も多い。
- 商工会議所青年部の婚活イベントでは8組のカップルが誕生したと報道されていた。
- 都会から女性に来てもらうという婚活が多いが、婚活メインではなく、中野市を知ってもらうということから始めてはどうか。「婚活」で縛りすぎないこと。
- 姉妹都市などとの交流を活用してはどうか。
- 野菜ソムリエなどの興味から農業に関心を持つ都会の女性が増えているが、一人で田舎に飛び込むのはハードルが高い。お試しができるようにするなど、気軽に参加できるよう配慮する必要がある。
- テレビ番組の婚活イベントなどを誘致してはどうか。
- 市内の若手農家の会「ぽぷり」では農業体験を行っているが、受け入れ態勢の拡大が現状では難しいので、JCなどと連携してできないかと思っている。
- 多様な能力を認め合えること、能力を引き出せるような教育環境も大事。例えば、市内の学校からは世界レベルの競歩選手が3人も出ている。このような地元出身者の活躍があこがれにつながり、話を聞きたいとか、地域に誇りが持てるようになる。地域に誇りを持てば、外に出ていかなくなる。
- 松本市出身の芸術家、草間弥生氏の作品でかぼちゃをモチーフにしたものがあるが、松本市のかぼちゃ農家はそのかぼちゃをデザインしたTシャツを着ている。地元の人が著名出身者を身近に感じられるようなことが必要。久石譲氏についてもそういうことができないか。
- 故郷に帰ってきたいと思える環境作りで大事なものは、情報発信である。常に情報を出し続ける

こと。

- 高齢化で体が利かなくなっていて出荷ができないとの声がある。高齢者の持つ農業技術を使わないのはもったいない。出荷支援などができないか。
→農産物直売所の始まりはそういう人たちの生きがい対策であった。

OBグループ

- 未婚の理由は、男女で異なる。女性は晩婚化が進んでいるし、男性では結婚しない人は少ない。出会いがあっても結婚しない。特に男性は一定年齢を超えると結婚しない気がするが、出会いの場の量を増やさないと難しいのではないか。
- 未婚の男女をクローズアップすること自体、中野市では出会いの場がないし、違和感がある。TV番組でお見合い企画みたいなものがあるが、そこなのかとを感じる。
- 昔は未婚だと早く結婚しないといけないみたいな雰囲気があった。だが、現代は偏見がなくなって、自分の生き方が決められる。女性においても、仕事をするのが経済的な面だけでなく、生きがいを感じるものとなっている。
- 結婚しない理由は様々であるが、結婚願望を持った方は多い。結婚の前に、家庭を持つことの良さを知る必要があるのではないか。
→学校教育等を活用するのも有効ではないか。
- 自然減の抑制と考えた時、子育て等の環境を充実させることで外から来てもらうやり方と、根本的に中野市単体で自然増を目指すやり方とでは方向性が変わってくる。中野市単体で考えれば、楽しい場所がある、子育てのフォローアップが充実しているとか、働きながら子育てしやすい環境など、他市と比較して強みになれば自然減を抑制することができるのではないか。スタートが異なれば施策も変わってくる。
→まさに中野の良さ・強みを出していかなければならない。それが移住にもつながる。
- 食べるところ、飲みに行くところなど、長野市と比較される。須坂市民が食事となると、中野でなく長野に行く。それは長野の方が魅力や引きつけるものがある。
→中野の魅力を向上させるのが大切。
- 中野は農産物も美味しいし安いし、住みやすい所だと思うし魅力もある。出生率をみても全国や長野県より高い。ただ、魅力ある飲食店が多くないと感じる。
- 自然減を抑制するためにどうすればいいかと、そこだけを議論しても極端ではあるが何も始まらない。出生率を上げるために施策を講じることに意味がないとは言わないが、決定打ではない。自然減を抑制するためのプロセスを段階的に理解することが重要。仕事が増える→社会動態の改善→自然減の抑制とつながるのではないか。
- 経済的な視点で、所得が増えないとしても、子育てでフォローがあって、貯蓄が他市より確実に増える。仮に職場が長野などで通勤等に時間がかかるが、それでも中野市に住む人がいるのではないか。逆に、少しでも自由な時間が欲しいから金銭的なフォローだけでは動かないという人もいる。企業でスキルアップして給料を増やしたい人、給料は安くてもいいから自由な時間が欲しい人。後者であれば、子育てなどに金銭的なフォローがあれば、少ないとは思いますが、移住につながる可能性はある。
- 人に来てもらうに、ただ来てくださいでは誰も来ない。仕事があって、素晴らしい子育て環境

があって、親がいるとかなど、それ以外の人は絶対に来てくれない。

- 不妊へのサポートは必要ではないか。
- 子どもが出来た時の、男性のサポート。仕事にしても地域社会として、頭を一度リセットして育児しながらの新しい働き方、生活スタイルなど、変えていかないといけないのではないか。→そういう部分で強みを持つ中野市を目指すこともよい。
- 育児休暇は女性がとるものだと思われている。以前の会議で、きのこ工場では日本人女性は子どもの用事とかで休暇をとるので、外国人を雇用してしまうという話があった。経営者側の意識改革も相当必要であると思う。
- 都会と比較すると、保育園や幼稚園に入りやすいし、子育てする環境としてはよい。都会と田舎を比べた時、人口の大小はあるが、その良さの言い方・伝え方が大事である。女性が育児をメインに行う環境は同じであるが、来てもらってから中野市での育児を経験してもらい、良さなどを情報発信してもらえれば移住者も増える可能性はある。
- 中野市を知ってもらう「きっかけ」は様々であるが、人と人とのつながりは重要である。
- 中野市に住んでいる人の生の声を、インターネットやSNSなどで伝えることは、現代では有効である。
- 伝え方は映像なのかSNSなのか、いかにマーケティングしながらどういう方向で進めていくべきか、今は理想で終わってしまっている。ハンドリングできるレベルで1歩1歩、何が良くて悪いのかもわからない状況なので、チャレンジしていく。
- 人から知ることは沢山ある。地方から発信できるもの、中野市らしさは間違いなくある。
- 中野市だと「故郷」のふるさとと出している。それをキーワードにして、移住を促進する。例えば、ふるさとの無い人をターゲットとして中野を故郷にしてもらうウェルカムの視点を持つことも必要。どこでも自活できる人は自活できる。そういう人に中野を選んでもらうには、中途半端では選んでももらえない。何か大きなメリットがないと、遊びには来てくれるが、移住となると相当な魅力を発信しないとイケない。
- 故郷の歌ができた場所でなく、本当の故郷としてアピールしていく。生まれ育った土地があると思うが、事情があり帰れない人も少なからずいる。みんなを受け入れる環境になれば、確実に社会動態の改善から自然減の抑制につながっていくものと思う。相当なアイデア、施策をしないと目立たないので、イメージがわからない、ピンとこないものになってしまう。
- 中野市はこういうまちなんだと言えるものがあれば、前進していくことができる。